

諫早市林道施設長寿命化計画 (個別施設計画)

平成28年6月
諫早市 農林水産部 林務水産課

諫早市林道施設長寿命化計画(個別施設計画)

1. 基本的事項

諫早市が管理する林道橋は、平成28年4月現在で33橋あり昭和14年(1939年)から平成5年(1993年)に建設されている。現時点で建設後50年を経過した橋梁は全体の52%(17橋)であるが、20年後には73%(24橋)となり、今後急速に老朽化が進むことが予想される。これらの橋梁を良好な管理の下に利用していくためには、点検などによって橋梁の現状を正確に把握し、そのデータを基にした予防的な修繕によって、橋梁の長寿命化及び橋梁の修繕・架替えにかかる費用削減が必要とされる。

これらを踏まえ、維持管理に当たっては「予防保全型維持管理」の考え方を導入し、個々の林道施設の現状を把握するとともに、これを踏まえた施設毎の維持管理・更新等の内容について整理・計画するなど必要な対策を適切に実施するものとする。

2. 対象施設

本計画における施設毎の計画期間は別紙(個票)のとおりである。

3. 計画期間

本計画における施設毎の優先度は別紙(個票)のとおりである。

4. 施設の優先度

本計画の策定に当たって実施した点検・診断により把握された(または本計画の策定時点で把握されている)施設毎の状態については別紙(個票)のとおりである。

5. 施設の状態等

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施の時期について別紙(個票)のとおり計画する。

6. 対策内容と実施時期

個別施設ごとの対策内容と実施時期については別紙(個票)のとおりである。なお、施設の機能に重大な影響を及ぼし得る不具合が発生した場合には、必要に応じて詳細な点検を実施した上で、補修、更新、昨日強化等の必要な対策を講ずる。

7. 対策費用

個別施設ごとの対策費用等については、施設の機能に重大な影響を及ぼし得る不具合が発生した場合に、必要に応じて詳細な調査点検を実施した上で、補修、更新、機能強化等の必要な対策を講じるための費用を算出する。

個別施設計画一覧表(橋梁)

個別施設 整理番号	林道台帳 索引番号	路線名	林道種類 及び区分	橋梁名	所在地	起点から の距離	建設 年度	供用 年数	種別	型式	道路橋 示方書	橋格 (設計荷 重)	橋下 条件	橋長 (m)	幅員 (m)	上部工型式	橋台工 型式	橋脚工 型式	海岸から の距離 (km)	施設の現況			計画内容				優先 度	措置記録					備考	
																				点検実施 年月日	判定区分	所見等	計画期間	内容		実施 予定時期		対策費用 (概算:百万円)	実施 年月日	内容		再判定実施 年月日		再判定区分
																								分類	概要(数量)					分類	概要(数量)			
1	4	赤水線	自動車道2級	四の内川橋	諫早市富川町	1.3	1980	36	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S.51	T-20	河川	4.0	5.0	RC 中実床版	逆T式	—	—	H25.8.27	II	基礎部の洗掘	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
2	4	赤水線	自動車道2級	赤水橋	諫早市上大波野町	3.5	1973	43	PC橋	コンクリート床版橋	S.46	T-14	河川	7.3	4.0	PC桁橋	重力式	—	—	H25.8.27	I	—	H28~H32	目視点検	—	通年	—	低						
3	11	坊主谷下線	自動車道2級	水無橋	諫早市富川町	1.6	1967	49	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	6.5	3.6	RC 中実床版	重力式	—	—	H25.8.27	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
4	12	黒崎線	自動車道2級	黒崎橋	諫早市黒崎町	0.9	1960	56	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	6.4	3.6	RC T桁	重力式	—	—	H25.9.5	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
5	16	湯野尾下線	自動車道2級	湯野尾1号橋	諫早市富川町	3.6	1964	52	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	6.0	3.9	RC 中実床版	重力式	—	—	H25.8.27	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
6	17	椿原線	自動車道2級	水神測橋	諫早市白木峰町	2.9	1961	55	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	12.5	3.6	RC T桁	重力式	—	—	H25.8.28	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
7	17	椿原線	自動車道2級	椿原上橋	諫早市白木峰町	4.1	1989	27	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S.51	T-20	河川	11.5	3.7	RC T桁	重力式	—	—	H25.8.28	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
8	32	刺刀峰線	自動車道3級	刺刀峰橋	諫早市白木峰町	0.5	1984	32	PC橋	コンクリート床版橋	S.51	T-20	河川	9.2	4.0	プレテン床版	重力式	—	—	H25.8.27	I	—	H28~H32	目視点検	—	通年	—	低						
9	34	多良岳横断線	自動車道1級	水ノ手橋	諫早市富川町	1.3	1991	25	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	11.0	5.8	I桁	重力式	—	—	H25.8.27	II	桁の腐食	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
10	34	多良岳横断線	自動車道1級	犬首橋	諫早市富川町	3.2	1988	28	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S.51	T-20	河川	11.6	5.0	RC T桁	重力式	—	—	H25.8.27	I	—	H28~H32	目視点検	—	通年	—	低						
11	34	多良岳横断線	自動車道1級	大平橋	諫早市富川町	5.7	1988	28	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	13.0	5.0	I桁	重力式	—	—	H25.8.27	II	桁の腐食	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
12	34	多良岳横断線	自動車道1級	しゃくなげ橋	諫早市白木峰町	7.8	1991	25	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	17.0	5.3	I桁	逆T式	—	—	H25.8.27	II	桁の腐食	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
13	34	多良岳横断線	自動車道1級	双合川橋	諫早市白木峰町	7.9	1993	23	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	17.0	5.3	I桁	逆T式	—	—	H25.8.27	II	桁の腐食	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
14	34	多良岳横断線	自動車道1級	水源橋	諫早市高来町折山	14.7	1988	28	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	9.0	5.5	I桁	重力式	—	—	H25.8.28	II	桁の腐食	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
15	34	多良岳横断線	自動車道1級	山犬谷橋	諫早市高来町平田	16.8	1984	32	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S.51	T-20	河川	10.5	5.0	RC T桁	重力式	—	—	H25.8.28	I	—	H28~H32	目視点検	—	通年	—	低						
16	48	榎堂線	自動車道2級	二又橋	諫早市高来町古場	2.5	1959	57	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	7.5	3.6	RC T桁	重力式	—	—	H25.8.28	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
17	48	榎堂線	自動車道2級	鹿倉山橋	諫早市高来町古場	2.8	1992	24	鋼橋	鋼桁橋	不明	不明	河川	12.0	3.6	I桁	重力式	—	—	H25.8.28	II	桁の腐食	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
18	50	平田線	自動車道2級	每山橋	諫早市高来町折山	1.5	1959	57	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	21.4	4.2	RC T桁	石積	壁式	—	H25.9.5	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
19	50	平田線	自動車道2級	羽手越橋	諫早市高来町折山	2.1	1960	56	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	21.4	4.2	RC T桁	石積	壁式	—	H25.9.5	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
20	50	平田線	自動車道2級	1号橋	諫早市高来町折山	2.4	1939	77	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	8.5	3.6	RC T桁	逆T式	—	—	H25.9.5	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
21	50	平田線	自動車道2級	2号橋	諫早市高来町折山	3.2	1939	77	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	8.5	3.6	RC T桁	逆T式	—	—	H25.9.5	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
22	50	平田線	自動車道2級	3号橋	諫早市高来町折山	3.4	1960	56	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	8.6	4.2	RC T桁	重力式	—	—	H25.9.5	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
23	50	平田線	自動車道2級	4号橋	諫早市高来町折山	3.6	1960	56	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	7.5	3.6	RC T桁	重力式	—	—	H25.9.5	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
24	50	平田線	自動車道2級	5号橋	諫早市高来町折山	3.8	1965	51	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	9.5	3.6	RC T桁	重力式	—	—	H25.9.5	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
25	52	黒新田線	自動車道2級	宇良山橋	諫早市高来町黒新田	1.7	1956	60	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	20.0	4.0	RC T桁	重力式	壁式	—	H25.9.6	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
26	52	黒新田線	自動車道2級	雨堤橋	諫早市高来町黒新田	3.7	1959	57	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	7.0	3.7	RC T桁	重力式	—	—	H25.9.6	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
27	57	炊小屋線	自動車道2級	1号床版橋	諫早市高来町善住寺	2.1	1961	55	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	4.3	4.0	RC 中実床版	重力式	—	—	H25.9.6	I	—	H28~H32	目視点検	—	通年	—	低						
28	57	炊小屋線	自動車道2級	2号床版橋	諫早市高来町善住寺	2.8	1986	30	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S.51	T-20	河川	5.4	4.0	RC 中実床版	重力式	—	—	H25.9.6	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
29	58	丸尾線	自動車道2級	丸尾1号橋	諫早市高来町善住寺	1.0	1965	51	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	2.7	3.9	RC 中実床版	石積	—	—	H25.10.10	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
30	61	西黒新田線	自動車道2級	西黒新田橋	諫早市高来町黒新田	0.6	1978	38	コンクリート橋	コンクリート床版橋	S.51	T-20	河川	6.0	4.0	RC 中実床版	逆T式	—	—	H25.9.6	II	部分剥離	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
31	63	砥石川線	自動車道2級	1号床版橋	諫早市高来町平田	5.7	1962	54	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	7.6	3.5	RC T桁	重力式	—	—	H25.9.6	II	基礎部の洗掘	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
32	63	砥石川線	自動車道2級	2号床版橋	諫早市高来町平田	5.9	1962	54	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	7.5	3.6	RC T桁	重力式	—	—	H25.9.6	II	部分剥離	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						
33	66	鳥越線	自動車道2級	深谷橋	諫早市小長井町川内	2.2	1968	48	コンクリート橋	コンクリート床版橋	不明	不明	河川	9.8	3.6	RC T桁	逆T式	—	—	H25.9.6	II	部分鉄筋露出	H28~H32	目視点検	—	通年	—	中						

個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号番号	4	施設管理者	諫早市
路線名	赤水線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	四の内川橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	1.3km	建設年度	1980
供用年数	36	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S.51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.0m		幅員(車道幅員)	5.0m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC 中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道赤水線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月27日				
	調査結果	橋台基礎に洗掘が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	大雨時の洗掘が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から措置を講ずることが望ましいが、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号番号	4	施設管理者	諫早市
路線名	赤水線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	赤水橋
施設の所在地	諫早市上大渡野町	起点からの距離	3.5km	建設年度	1973
供用年数	43	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S.46	橋格(設計荷重)	T-14	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.3m		幅員(車道幅員)	4.6m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PC桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道赤水線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月27日				
	調査結果	対策を要する損傷は見られなかった。				
	健全性の診断結果	I (健全)	橋梁の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	—				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号番号	11	施設管理者	諫早市
路線名	坊主谷下線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	水無橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	1.6km	建設年度	1967
供用年数	49	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.5m		幅員(車道幅員)	4.0m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC 中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道坊主谷下線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月27日				
	調査結果	床板に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	4	林道台帳索引番号番号	12	施設管理者	諫早市
路線名	黒崎線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	黒崎橋
施設の所在地	諫早市黒崎町	起点からの距離	0.9km	建設年度	1960
供用年数	56	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.4m		幅員(車道幅員)	4.0m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道黒崎線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月5日				
	調査結果	床板、桁に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	5	林道台帳索引番号番号	16	施設管理者	諫早市
路線名	湯野尾下線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	湯野尾1号橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	3.6km	建設年度	1964
供用年数	52	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m		幅員(車道幅員)	4.3m (3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RC 中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道湯野尾下線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月27日				
	調査結果	床板に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	6	林道台帳索引番号番号	17	施設管理者	諫早市
路線名	椿原線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	水神淵橋
施設の所在地	諫早市白木峰町	起点からの距離	2.9km	建設年度	1961
供用年数	55	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.5m		幅員(車道幅員)	4.0m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道椿原線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月28日				
	調査結果	床板、桁に部分鉄筋露出が見られる。 コンクリート舗装に部分ヒビ割れが見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	7	林道台帳索引番号番号	17	施設管理者	諫早市
路線名	椿原線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	椿原上橋
施設の所在地	諫早市白木峰町	起点からの距離	4.1km	建設年度	1989
供用年数	27	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S.51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.5m		幅員(車道幅員)	4.1m (3.7m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	有
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道椿原線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月28日				
	調査結果	桁に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
対策の内容・実施時期	診断点検	-	-	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	8	林道台帳索引番号番号	32	施設管理者	諫早市
路線名	刺刀峰線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	刺刀峰橋
施設の所在地	諫早市白木峰町	起点からの距離	0.5km	建設年度	1984
供用年数	32	種別	PC橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S.51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.2m		幅員(車道幅員)	4.5m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	プレテン床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道刺刀峰線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月27日				
	調査結果	対策を要する損傷は見られなかった。				
	健全性の診断結果	I (健全)	橋梁の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	—				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	9	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	水ノ手橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	1.3km	建設年度	1991
供用年数	25	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.0m		幅員(車道幅員)	6.6m (5.8m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月27日				
	調査結果	桁に腐食(錆び)が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化による鋼製部の酸化腐食が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	10	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	犬首橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	3.2km	建設年度	1988
供用年数	28	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S.51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.6m		幅員(車道幅員)	5.8m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月27日				
	調査結果	対策を要する損傷は見られなかった。				
	健全性の診断結果	I (健全)	橋梁の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	—				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	11	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	大平橋
施設の所在地	諫早市富川町	起点からの距離	5.7km	建設年度	1988
供用年数	28	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	13.0m		幅員(車道幅員)	5.8m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月27日				
	調査結果	桁に腐食(錆び)が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化による鋼製部の酸化腐食が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	12	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	しゃくなげ橋
施設の所在地	諫早市白木峰町	起点からの距離	7.8km	建設年度	1991
供用年数	25	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	17.0m		幅員(車道幅員)	6.1m (5.3m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月27日				
	調査結果	桁に腐食(錆び)が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化による鋼製部の酸化腐食が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	13	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	双合川橋
施設の所在地	諫早市白木峰町	起点からの距離	7.9km	建設年度	1993
供用年数	23	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	17.0m		幅員(車道幅員)	6.3m (5.3m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月27日				
	調査結果	桁に腐食(錆び)が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化による鋼製部の酸化腐食が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	14	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	水源橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	14.7km	建設年度	1988
供用年数	28	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.0m		幅員(車道幅員)	6.3m (5.5m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月28日				
	調査結果	桁に腐食(錆び)が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化による鋼製部の酸化腐食が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	15	林道台帳索引番号番号	34	施設管理者	諫早市
路線名	多良岳横断線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	山犬谷橋
施設の所在地	諫早市高来町平田	起点からの距離	16.8km	建設年度	1984
供用年数	32	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S.51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.5m		幅員(車道幅員)	5.8m (5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道多良岳横断線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月28日				
	調査結果	対策を要する損傷は見られなかった。				
	健全性の診断結果	I (健全)	橋梁の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	—				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	16	林道台帳索引番号番号	48	施設管理者	諫早市
路線名	榎堂線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	二又橋
施設の所在地	諫早市高来町古場	起点からの距離	2.5km	建設年度	1959
供用年数	57	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.5m		幅員(車道幅員)	4.5m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	無
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道榎堂線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月28日				
	調査結果	桁に部分鉄筋露出が見られる。 橋台に部分剥離が見られる。 コンクリート舗装に部分ヒビ割れが見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
対策の内容・実施時期	診断点検	-	-	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	17	林道台帳索引番号番号	48	施設管理者	諫早市
路線名	榎堂線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	鹿倉山橋
施設の所在地	諫早市高来町古場	起点からの距離	2.8km	建設年度	1992
供用年数	24	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.0m		幅員(車道幅員)	4.4m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	I桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道榎堂線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年8月28日				
	調査結果	桁に腐食(錆び)が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化による鋼製部の酸化腐食が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	18	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	毎山橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	1.5km	建設年度	1959
供用年数	57	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	21.4m		幅員(車道幅員)	5.0m (4.2m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	石積		基礎形式	不明	
橋脚工型式	壁式		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月5日				
	調査結果	桁に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	19	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	羽手越橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	2.1km	建設年度	1960
供用年数	56	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	21.4m		幅員(車道幅員)	5.0m(4.2m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	石積		基礎形式	不明	
橋脚工型式	壁式		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月5日				
	調査結果	桁に部分鉄筋露出が見られる。 コンクリート高欄の部分欠損が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	20	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	1号橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	2.4km	建設年度	1939
供用年数	77	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.5m		幅員(車道幅員)	4.1m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月5日				
	調査結果	桁に部分鉄筋露出が見られる。 コンクリート高欄の部分欠損が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	21	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	2号橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	3.2km	建設年度	1939
供用年数	77	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.5m		幅員(車道幅員)	4.1m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月5日				
	調査結果	床板、桁に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	22	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	3号橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	3.4km	建設年度	1960
供用年数	56	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.6m		幅員(車道幅員)	5.1m(4.2m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月5日				
	調査結果	桁に部分鉄筋露出が見られる。 床板に部分剥離が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通じた林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通じた林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	23	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	4号橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	3.6km	建設年度	1960
供用年数	56	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.5m		幅員(車道幅員)	4.0m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月5日				
	調査結果	床板、桁に部分鉄筋露出が見られる。 橋台基礎に洗掘が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	24	林道台帳索引番号番号	50	施設管理者	諫早市
路線名	平田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	5号橋
施設の所在地	諫早市高来町折山	起点からの距離	3.8km	建設年度	1965
供用年数	51	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.5m		幅員(車道幅員)	4.0m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道平田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月5日				
	調査結果	桁に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	25	林道台帳索引番号番号	52	施設管理者	諫早市
路線名	黒新田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	宇良山橋
施設の所在地	諫早市高来町黒新田	起点からの距離	1.7km	建設年度	1956
供用年数	60	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	20.0m		幅員(車道幅員)	4.8m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	壁式		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道黒新田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月6日				
	調査結果	桁に部分鉄筋露出が見られる。 コンクリート舗装に部分ヒビ割れが見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。 また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	26	林道台帳索引番号番号	52	施設管理者	諫早市
路線名	黒新田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	雨堤橋
施設の所在地	諫早市高来町黒新田	起点からの距離	3.7km	建設年度	1959
供用年数	57	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.0m		幅員(車道幅員)	4.3m (3.7m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道黒新田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月6日				
	調査結果	床版に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	27	林道台帳索引番号番号	57	施設管理者	諫早市
路線名	炊小屋線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	1号床版橋
施設の所在地	諫早市高来町善住寺	起点からの距離	2.1km	建設年度	1961
供用年数	55	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.3m		幅員(車道幅員)	4.8m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC 中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道炊小屋線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月6日				
	調査結果	対策を要する損傷は見られなかった。				
	健全性の診断結果	I (健全)	橋梁の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	—				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	28	林道台帳索引番号番号	57	施設管理者	諫早市
路線名	炊小屋線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	2号床版橋
施設の所在地	諫早市高来町善住寺	起点からの距離	2.8km	建設年度	1986
供用年数	30	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S.51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.4m		幅員(車道幅員)	4.8m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC 中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	有	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道炊小屋線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月6日				
	調査結果	床版に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考										

※個々の施設毎に作成

別添の別紙(個票)

個別施設整理番号	29	林道台帳索引番号番号	58	施設管理者	諫早市
路線名	丸尾線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	丸尾1号橋
施設の所在地	諫早市高来町善住寺	起点からの距離	1.0km	建設年度	1965
供用年数	51	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.7m		幅員(車道幅員)	3.9m (3.9m)
	施設の構造等	上部工型式	RC 中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	石積		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道丸尾線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年10月10日				
	調査結果	床版に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	30	林道台帳索引番号番号	61	施設管理者	諫早市
路線名	西黒新田線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	西黒新田橋
施設の所在地	諫早市高来町黒新田	起点からの距離	0.6km	建設年度	1978
供用年数	38	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	S.51	橋格(設計荷重)	T-20	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0m		幅員(車道幅員)	4.0m (4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC 中実床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道西黒新田線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月6日				
	調査結果	床版に部分剥離が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	31	林道台帳索引番号番号	63	施設管理者	諫早市
路線名	砥石川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	1号床版橋
施設の所在地	諫早市高来町平田	起点からの距離	5.7km	建設年度	1962
供用年数	54	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.6m		幅員(車道幅員)	3.9m (3.5m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道砥石川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月6日				
	調査結果	橋台基礎に洗掘が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	大雨時の洗掘が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画 目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	32	林道台帳索引番号番号	63	施設管理者	諫早市
路線名	砥石川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	2号床版橋
施設の所在地	諫早市高来町平田	起点からの距離	5.9km	建設年度	1962
供用年数	54	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.5m		幅員(車道幅員)	4.0m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
	橋台工型式	重力式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道砥石川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月6日				
	調査結果	橋台に部分剥離が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	—				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
対策の内容・実施時期	診断点検	—	—	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考

個別施設整理番号	33	林道台帳索引番号番号	66	施設管理者	諫早市
路線名	鳥越線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	深谷橋
施設の所在地	諫早市小長井町川内	起点からの距離	2.2km	建設年度	1968
供用年数	48	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	不明	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.8m		幅員(車道幅員)	4.1m (3.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC T桁			
			鋼製(使用鋼材)	-		塗装使用の有無
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	有
	橋台工型式	逆T式		基礎形式	不明	
橋脚工型式	-		海岸からの距離	-		
施設の目的利用実態等	林道鳥越線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成25年9月6日				
	調査結果	床板、桁に部分鉄筋露出が見られる。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	橋梁の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	老朽化によるコンクリート剥離が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成28年度～平成32年度				
	内容	林道パトロール時において目視点検を行う。				
	実施予定時期	予防保全の観点から、当面の間は年間を通した林道パトロール時による目視点検を実施する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 診断結果により、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	-				
管理方法	長寿命化対策として、年間を通した林道パトロール時による目視点検を行う。また、林道の清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
対策費用(百万円)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
対策の内容・実施時期	診断点検	-	-	長寿命化計画	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検	目視点検

備考